

第3章 外国語活動

第1 本指導実践事例集の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、小学校学習指導要領及び埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導資料、同評価資料を踏まえ、各学校で児童が主体的に楽しく取り組める授業が展開されることや、児童の活動意欲を高める指導と評価の改善が図られるなど、学習指導と学習評価の充実に資することを編集の基本とした。

本資料の作成に当たっては、次の点に配慮した。

- (1) 地域の実情や児童の実態に即して、各学校が指導計画の作成及び授業の改善に生かせるよう配慮した。
- (2) 外国語活動のねらいを実現するための言語活動を各事例に盛り込むよう配慮した。
- (3) 小中連携の充実、教育機器の活用、他教科等との関連付けなど、コミュニケーション能力の素地を育成する授業を創造する上で今日的課題の解決が図れるよう配慮した。

2 取り上げた内容

新学習指導要領が全面实施となり、各学校で実践されている優れた実践事例の中から特色のある六つの事例を取り上げた。

- (1) コミュニケーションを意識した活動を工夫した事例

外国語を生きた言葉として使用し、言語の機能に視点を当て、自分の気持ちを伝え合う自然なコミュニケーションを意識した活動とすることをねらいとした実践事例を紹介する。

- (2) デジタル教材を活用した事例

学級担任が単独で効果的に外国語活動の授業を展開できるよう、デジタル教材を積極的に取り入れた実践事例を紹介する。

- (3) 言語活動を充実させるための活動を工夫した事例

児童の生活時間という身近で興味深い話題を設定することにより、積極的にコミュニケーションを図り、互いに意見を伝え合う活動の充実を目指した実践事例を紹介する。

- (4) 中学校の教材等を活用した事例

同じ中学校区内の小学校教員と中学校英語科教員が連携を図り、中学校で使用している教材等を小学校外国語活動で活用する実践事例を紹介する。

- (5) 他教科等と関連した事例

外国語活動の目標の柱の一つである「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める」ことを具現化するために、他教科等（社会科、総合的な学習の時間）との関連に重点を置いた実践事例を紹介する。

- (6) 児童生徒の交流学習の事例（小中連携）

小学校の児童が抱えている中学校生活への不安の解消や中学校入学後の学校不適應等の問題の解消が大きな課題となっている。そこで小・中学生の交流学習に取り組むことにより、中学校における外国語教育への円滑な接続をねらいとした実践事例を紹介する。

3 活用に当たっての配慮事項

本資料は、外国語活動における適切な学習指導及び学習評価に役立てるため、具体的な指導実践事例を掲載し、各学校において行われる授業の構想と展開の参考資料として作成したものである。各事例の活用に当たっては、次の点に配慮されたい。

- (1) 地域の実情や児童の実態を把握し、本資料を参考資料の一つとしながら年間指導計画の工夫と改善（更新）を行うよう努める。
- (2) 学級数や児童数、外国語指導助手（ALT）や学習支援員の配置数等、学校の実情と照らし合わせて、指導形態や指導方法等を工夫するよう努める。
- (3) 本資料の活用とともに、学習指導案や教材・教具等の開発とその蓄積を図り、各学校の教員が互いに教材等を共有できるような環境の構築・整備・充実に努める。

第2 実践事例

事例1 コミュニケーションを意識した活動を工夫した事例

1 ねらい

外国語活動においては、「言葉に気持ちをのせる」ことが大切である。言葉は、自分のもっている情報や気持ち、考えを相手と伝え合うために使うものである。そこで、外国語活動でも「メッセージ（意味）」を伝え合う、心のこもったやりとりをさせたい。生きた言葉として外国語を使うという視点を意識し、聞きたいから聞く、話したいから話す、本当の気持ちなどを伝える、そんな活動を心がけたい。また、言語の機能や使用場面、状況に視点を当てることも重要である。この表現はどんな場面でどのように使われるのかを考えた上で、聞いたり答えたりすることに意味のある活動を設定していきたい。本事例では生きた言葉として外国語を使い、言語機能に視点を当て、コミュニケーションを意識した活動を展開することをねらいとする。

2 単元名 What's this? これは何?

3 指導と評価の計画（3時間扱い）

時	目標・活動	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	○英語でものを尋ねたり、答えたりする言い方を知り、英語と日本語とではその表し方が違うことに気付く。 ○持ち物当てクイズを通して、ものを尋ねる言い方に慣れ親しむ。			○	日本語と英語では、ものを尋ねる言い方が違うことに気付いている。 持ち物当てクイズを通して、ものを尋ねる言い方を聞いている。	行動観察 行動観察
2 本時	○基本表現を使ってものを尋ねたり答えたりする言い方に慣れ親しむ。 ○ちぎり絵クイズを通して基本表現を使った会話をしようとする。			○	ものを尋ねたり答えたりする表現を聞いたり、言ったりしている。 ちぎり絵クイズを出したり、答えたりしている。	行動観察 行動観察
3	○日本と異なる外国の自然や文化に気付く。 ○自分や友達の持ち物を使った、音当て、におい当てゲームなどを通して、基本表現を使った会話をしようとする。			○	日本と外国の自然や文化の違いに気付いている。 自分や友達の持ち物について尋ねたり、答えたりしている。	行動観察 振り返りカード分析 行動観察

4 ねらいを実現するための手立て・工夫等

本事例では、魅力ある授業とするために以下のような点に配慮し、実践を行う。

- 児童と担任（HRT）、ALT が英語で自分の気持ちを伝え合う自然なコミュニケーション（言葉のやりとり）を活動の中に取り入れる。
- 基本表現が日常生活のどのような場面でのどのように使われているかを考慮し、児童自身が気持ちを伝え合えるコミュニケーション活動を設定する。
- 児童の意欲を高めるため、真実性、現実性、必然性、切実性などを考慮し、「スパイス」で味付けするように活動に変化をもたせる。
 - * 真実性…本当の気持ちを言えるようにする。
 - * 現実性…基本表現を実際に使用する場面に近いものにする。
 - * 必然性…基本表現を使うことが必要と思える場面を設定する。
 - * 切実性…どうしても聞きたい、言いたい気持ちにさせる。

5 本時の展開例（第2時／3時間）

過程	児童の活動	教師の働きかけ		◇指導上の留意点 ◎評価 【観点】〈方法〉	資料
		HRT	ALT		
挨拶	1 元気に挨拶をする。 Good afternoon, ○○sensei. ・名前を呼ばれたら名札をもらい、今日の様子を気軽にやり取りする。	Good afternoon, everyone. ○○,where are you?	Good afternoon, everyone. ○○,where are you?	◇気持ちよく、挨拶をさせる。 ◇ALT の話を聞いて、天気などの質問に答えられるようにする。 ◇名札を手渡すため、どこにいるのか確認する。	

<p>全員が I'm fine. と答えるのではなく、児童と HRT、ALT が 1対1 で自分の気持ちを伝え合う活動。今の調子を自分の言葉で伝えることで、児童も生き生きとした表情で話すことができ、自然なコミュニケーションにつながる。【真实性】</p>	<p>How are you ?</p> 	<p>I'm happy. Thank you.</p>	<p>◇名札を渡しながら、今日の様子を気軽に英語でやり取りをする機会を一人一人にもたせるようにする。</p> 	<p>名札</p> <p>I'm great. Thank you.</p>
<p>導入 2 ウォームアップを行いみんなで楽しむ。 Simon says Pease pudding hot</p> <p>児童の活動の様子を見て、それに合った声をかけることで、自然なコミュニケーションがとれる。ほめることや励ますこともコミュニケーションの一つである。</p>	<p>Simon says, "Touch your ears."</p>  <p>簡単、簡単。 まだまだいけるよ。</p>	<p>◇ALT の指示に耳を傾けて聞き、楽しみながら行わせる。 ◇児童がリラックスできる、楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>Simon says, "Touch your shoulder."</p>	<p>Wow! That's perfect!</p> 	
<p>Simon says の工夫</p> <p>簡単なルールからはじめ、児童が飽きないように活動にアレンジを加え、繰り返し英語の音声に触れられるようにする。</p> <p>慣れてきたら、shoulder と shoulders や mouse と mouth のような似た単語の音声聞き分けて動作させることもできる。</p>	<p>この言い方は、片方を触る言い方だね。次の言葉は何かな?</p>			
<p>展開・聞こう 3 基本表現を使ったいろいろな会話を聞く。</p> <p>What's this? の表現を使う活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャークイズ…ピクチャーカードの一部分だけを見せて質問し、答えを予想させる。 ・スリーヒントクイズ…一つずつヒントを出していき、三つのヒントから答えを想像させる。 <p>What's this? (先生、分かるかな?)</p> <p>(これは何かな?) Hint, please.</p> <p>Vegetable. Orange.</p> <p>It's a carrot.</p> <p>【ブラック・ボックス・クイズに使ったもの】 ・野菜・果物・文房具など</p>	<p>・ブラック・ボックス・クイズ</p>	<p>・児童と色・形などのヒントを出す。</p>	<p>◎ものを尋ねたり答えたりする表現を聞いたり、言ったりしている。</p> <p>【慣】〈行動観察〉</p>  <p>(これは何だろう?) Hint, please.</p> <p>Long Green.</p>	<p>ブラックボックス</p>

展 開 ・ 話 そ う	4 基本表現 What's this? を使った会話を練習する。 ・ちぎり絵を作り、尋ねる。	・ちぎり絵の作り方や 質問の方法などの 説明をする。	・英語の言い方の分か らない児童を支援す る。	◎ちぎり絵クイズを出したり、答えた りしている。【コ】(行動観察)	ちぎり 絵用の 紙	
	紙をちぎって、ものや動物の形にする。What's this?と相手に質問し、相手は予想して答える活動である。 実際に自分が作ったものを使って問題を出すことで、「早く問題を出したい。」「早く言いたい。」「答えられるかな?」 というワクワクした気持ち生まれ、自然に繰り返すことができる。 【切実性・必然性・現実性】					
まずは先生たちが見本を見せるよ。		 <p>先生、何を作 ったのかな?</p> <p>先生、 もっと見せて。</p> <p>What's this?</p>		 <p>Is it ○○ ? Is it ○○ ?</p>		
さあ！みんなもやってみよう！！		 <p>Yes. It's ○○.</p>		 <p>おもしろそう！！ 何を作ろうかな。</p>		
 <p>What's this? (みんな分かるかな?)</p>		 <p>先生、当ててみて！ What's this?</p>				
わ か り 合 お う	5 基本表現 What's this?を 使った会話をする。 ・日本や外国の文化や自然に 触れる。	・写真などで日本と外 国の文化や自然を 比べながら紹介す る。	・紹介したものに ついて説明を加える。	◇基本表現だけでなく、日本と外国 の文化や自然の違いについての 理解も深められるようにする。	写真や 各国の 品物	
	基本表現を踏まえて、日本と外国の文化や自 然の違いについて、学ぶようにさせる。		<table border="1"> <tr> <td>日本のこれなあに? ・自然 ・建物</td> <td>世界のこれなあに? ・動物 ・食べ物</td> </tr> </table>		日本のこれなあに? ・自然 ・建物	世界のこれなあに? ・動物 ・食べ物
日本のこれなあに? ・自然 ・建物	世界のこれなあに? ・動物 ・食べ物					

6 資料

【活動を組み立てるポイント】*活動を組み立てるときは、次のポイントを意識するようにする。
・どんな気持ちで言う? ・現実ではどんな場面で使う? ・実際にはどんなリズム、イントネーション?



基本表現	活動例
When is your birthday?	占いの館 ㊦誕生日ごとのラッキー○○を考え、占いの館を開くことで、言いたい・聞きたい気持ちが高まる。【必然性・切実性】
Can you do this?	得意技発表会 ㊦特技を披露する楽しさを味わえる。【現実性・必然性】
How many~?	マイコレクション紹介 ㊦自慢のコレクションを紹介し合うことで、驚きをもって聞くことができる。【切実性】
Do you like~?	オリジナルピザづくり ㊦相手の好みを聞いて、お気に入りのピザをつくってあげることで聞く意欲が高まる。【真実性】

事例2 デジタル教材を活用した事例

1 ねらい

外国語活動は担任（HRT）が中心となり、ALT もしくは日本人英語教員等の補助を受けながら、正しい発音を学んだり異文化についての体験談を話してもらったりして進めていくことが多い。しかし、ALT 等が活動に参加できない場合もある。そこで、デジタル教材を活用することにより、HRT だけでも円滑に、効果的に活動を展開できるようにすることをねらいとする。

2 単元名 How many? 数に親しもう

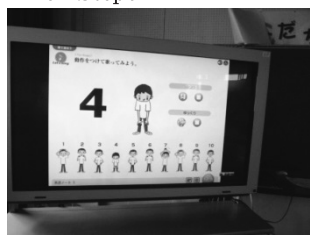

3 指導と評価の計画（4 時間扱い）


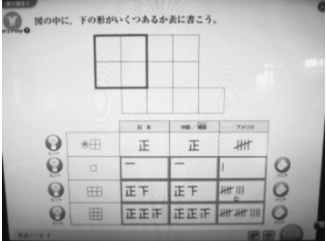


時	目標・活動	評 価			評価方法	
		コ	慣	気		
1	○世界には様々なじゃんけんの仕方があることを知るとともに、1～10 までの数の言い方を知る。			○	じゃんけんの仕方が国によって違うことに気付いている。 1～10 の数をしっかりと言いながら、進んで“Ten Steps”を歌おうとする。	振り返り カード分析
2 本 時	○世界には様々な数え方があることを知り、11～20 までの数の言い方を知る。			○	11～20 の数を聞いたり言ったりしている。	行動観察
3	○数をたずねたり、1～20 までの数で答えたりする。			○	友達に積極的に数をたずねたり、答えたりしている。	行動観察
4	○数を扱ったゲームを友達とやり取りしながら楽しむ。	○			数を使ったゲームに積極的に取り組み、友達とやり取りしている。	行動観察

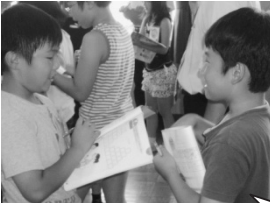




4 ねらいを実現するための手立て・工夫等

デジタル教材を大きく提示するためには大型スクリーンやプロジェクターが必要である。準備等を考慮すると、常設できる教室環境が望ましい。

5 本時の展開例（第2時／4 時間）

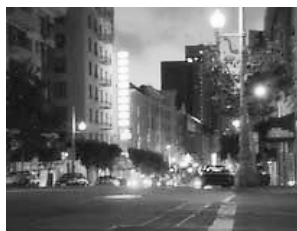
過程	活 動 内 容	教師の支援と評価 ◇支援 ◎評価【観点】〈方法〉		資料
		HRT	デジタル教材の活用	
ふ れ る	1 はじめの挨拶をする。 ・ Stand up. ・ Good afternoon, ○○sensei. ・ 天気 (It's ○○.) ・ 日付 (It's June 23rd.) ・ 曜日 (It's Tuesday.) ・ 体調 (I'm ○○.)	◇児童と一緒に元気に挨拶をする。 ・ Let's start our English class. ・ How is the weather today? ・ What's the date today? ・ What day is it today? ・ How are you ?	・ “Ten Steps” 	
	2 歌やじゃんけんを楽しむ。 ・ “Ten Steps”を歌う。 	◇児童と一緒に歌う。 ◇動作や声を大きく出せるように声をかけ、歌を楽しみながら歌わせる。 ・ 数を指定し、その数の時は拍手する等、歌い方を工夫する。 <p>One, two, three, four, five, six, seven.</p>	・ デジタル教材 “Ten Steps” を活用 ・ クリックすると1～10 の発音指導ができる。 ・ 1～10 の動作を確認し、踊りながら数に親しめる。 ・ スピードも変えられるので児童の実態に合わせて進められる。	
8分		画像を見ながらできるので、踊りやすい。HRT も一緒に活動することで支援できる。		

ふ れ る	<p>・HRTやデジタル教材の画像とじゃんけんをし、楽しむ。</p>  <p>えっ！さっきと違うぞ。 このパソコン強いかも！</p>	<p>韓国のじゃんけんに挑戦！ 「カイ」「パイ」「ボ」… 他にもアメリカや中国の じゃんけんもやってみよう！</p>	<p>・英語、韓国語、中国語のじゃんけん</p> <p>・デジタル教材「英語・中国語・韓国語のじゃんけん」を活用する。 ・各国のじゃんけんを選べる。 ・各国のかけ声も入っているので、じゃんけんを出すタイミングについて指導するだけで楽しめる。 ・毎回、じゃんけんを出すパターンが異なるので、児童もあきることなく、繰り返し楽しく活動できる。</p>
慣 れ る	<p>3 中国、韓国、アメリカの数の教え方を知る。</p>  <p>11 以上の数を知り、発音する。</p> 	<p>◇デジタル教材を活用しながら説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国や韓国は日本と同じ「正」の教え方であり、アメリカは直線を使用した教え方であることに気付かせる。 ・図の中にいくつあったか尋ねる。 ・How many squares are there in this picture? Let's count together. One, two, ... <p>◇11～20の数字を、しっかり発音できるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・13～19は語尾が“teen”であることに気付かせる。 	<p>・図や表</p> <p>・デジタル教材“Let's play”を活用 ・クリックすると、各国の教え方が画面に提示されるので、簡単に指導できる。 ・間違えて、元に戻したいときもワンクリックでできる等、使用方法が簡単である。</p> <p>・11～20の音声</p> <p>・デジタル教材“Twenty Steps”を活用 ・クリックすると、11～20の発音を指導できる。</p>
楽 し む	<p>4 “Twenty Steps”を歌う。</p> <p>5 発音された数字を直線で結ぶ。</p>  <p>電子黒板を活用すれば、児童も簡単に発表することができる。</p>	<p>◇声を大きく出せるように教師自身がモデルとなって動作や歌を楽しむ。</p> <p>◇聞き取れない児童もいるので、繰り返し聞かせたり、HRTがゆっくと発音したりする。</p>	<p>・“Twenty Steps”</p> <p>・デジタル教材“Twenty Steps”を活用</p> <p>・直線で結ぶ画像</p> <p>・デジタル教材“Let's listen”を活用 ・ポイントをドラッグすると、線を引くことができる。 ・間違えて、元に戻したいときもワンクリックでできるので、児童でも扱いやすい。</p>

	<p>6 数字ピラミッド・ゲームをする。</p> <p>数字ピラミッド・ゲームをして、友達に英語で質問したり、数を答えたりすることを楽しむ。</p>			
	<p>HRTと児童で会話のデモンストレーションをし、何回か練習してから行うとよい。</p>		<p>Hi! My name is ~.</p> <p>My number is 15.</p> <p>What's your number?</p>	
<p>楽しむ</p>		<p>・数字ピラミッド・ゲームの説明をする。</p> <p>①ゲームカードに1～20までの数字から15個選び、記入する。</p> <p>②教室を歩き回り、出会った友達と挨拶をして、英語でじゃんけんをする。</p> <p>③勝った児童は自分のピラミッドの中から好きな数字を言う。</p> <p>④互いにその数字を見付け、○で囲む。</p> <p>負けた方にその数字がなかったら、記入しない。</p> <p>⑤あいさつをして別れ、次の友達を見付ける。</p> <p>⑥全ての数字に○がいたら勝ちとなる。</p>	<p>ゲームカード</p>	
	<p>HRTも一緒に活動しながら、自然な雰囲気の評価を進める。</p> 	<p>ジャンケンしよう! 「ジェンタオ」 「シートウ」「プー」 あら負けちゃった!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材「数字ピラミッドゲーム」を活用 ・電子黒板を使うと、自由に数字を書き込める。 ・視覚的にゲームの説明ができ、効果的である。 	
<p>22分</p>	<p>7 ゲームの結果を尋ね、頑張った児童を称賛する。</p> <p>児童の意欲付けにステッカーをプレゼントする。 アルファベットステッカーにすると、自分の名前をそろえようと意欲が高まる。</p>	<p>◇たくさんの友達とコミュニケーションができるように 消極的な児童に声をかける。</p> <p>◎ 11～20までの数をゲームを通して言っている。【慣】 (行動観察)</p> <p>・時間内に全部○がついた児童やたくさんの友達と話せた児童を称賛しステッカーを渡す。</p> <p>・“Can I have a sticker?”の一言も話すようにする。</p>	<p>ステッカー</p>	
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>8 今日の活動を振り返る。</p> <p>・もとの席に戻り、自己評価をする。</p> <p>9 おわりの挨拶をする。</p> <p>・Stand up.</p> <p>・Good-bye, ○○ sensei.</p> <p>・See you.</p>	<p>◇カードの記入をさせながら、今日のよかった点を称賛する。</p> <p>毎時間の児童の自己評価を確認し、次時への活動に生かす。</p>		<p>振り返りカード</p>

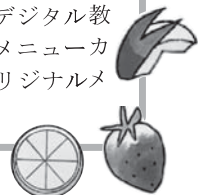
6 資料

インターネットが使えると…
「世界の時間を知る活動」では、リアルタイムに外国の映像が見られ、体感的に時差を学ぶことができる。



他の活動では…

「メニューづくり活動」ではデジタル教材を活用すると、たくさんのメニューカードを使わなくても簡単にオリジナルメニューを作ることができる。



今、アメリカは夜なんだ!


事例3 言語活動を充実させるための活動を工夫した事例

1 ねらい

本単元のねらいは「時刻の言い方を知り、自分の一日を紹介する」ことである。時刻や時間は児童の生活の中で身近な題材であり、日常生活の時間を友達に紹介したり、質問したりすることは興味をもって取り組みやすいと思われる。時刻や時間を表す言い方に慣れ、友達の生活について興味をもって聞くことで、生活の違いを認め合ったり互いへの理解を深めたりする活動にもつなげていくことができる。また、世界にはいろいろな国や地域があり、世界の子どもたちにもそれぞれの暮らしがあることや時差などにも気付かせていくことで、国際理解につなげていくこともできる。この単元の学習を通して、身近な生活時間について友達と伝え合う活動をすることで、互いが意見を伝え合う言語活動の充実を図ることをねらいとする。

2 単元名 What time do you get up? 自分の一日を紹介しよう




3 指導と評価の計画（4時間扱い）

時	目標・活動	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	<p>○時刻の言い方に触れる。</p> <p>○世界地図を見たり、時刻を聞いたりして時差があることに気付く。</p> <p>日本と韓国は時差が1時間しかないんだね。</p> 			○	時刻を聞いて世界の時差について気付いている。	行動観察 発表観察
<p>日本では昔、時刻を表す言い方に干支が使われてきたことに触れることもできる。</p> <p>(伝統文化・既習事項の活用〔動物〕・他教科との関連〔国語〕)</p> <p>海外での生活経験のある児童・保護者・地域の方々から外国での生活について話してもらうことで、児童の興味をさらに高めることもできる。</p> <p>(他国の学校生活〔給食・通学〕の様子等)</p>						
2	○日常生活に関する動作についての英語表現を知る。			○	ジェスチャーから言葉の意味を考え、その動作を表す言葉を進んで話している。	行動観察
3	○日常生活に関する動作の言い方や自分が伝えたい時刻の言い方に慣れ親しむ。			○	自分の伝えたい動作の言い方に慣れ親しんでいる。	行動観察 発表観察
<p>本時の活動につなげるため、生活に関する様々な動作の言い方に慣れ親しませる。(ゲーム・クイズ等)</p>						
4 本時	○日常生活を表す表現に慣れ親しみ、友達と話し合いながら自分たちの「スペシャルタイム」について伝え合う。	○		○	<p>友達の話を興味をもって聞き、積極的に声をかけたり質問したりしている。</p> <p>日常生活を表す表現や時間の言い方に慣れ、進んで発表している。</p>	行動観察 発表観察 振り返りカード 分析

4 ねらいを実現するための手立て・工夫等

この事例では、言語活動を充実させるための活動に重点を置いている。「私の『スペシャルタイム』は何でしょう」の活動につなげるために、チャッツやゲームを通していろいろな場面で繰り返し発音（表現）することで、時刻を表す言い方に十分に慣れ親しませ、自信をもって自然に外国語を使いたいと思えるような状態をつくっていく。ここでは動作の表現を多く扱うため、ジェスチャーでも表現しやすい。活動の中で友達と相談し合い、楽しみながらクイズを考えることで「発表したい。」という気持ちをもつことができる。自分の一日の生活時間の中で、友達と共通の活動をしている「スペシャルタイム」の時刻について発表し、何をしている時間かを考えたり自分の生活と比べたりすることで、互いに関心をもちながら言語活動を行い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図りたい。

5 本時の展開例 (第4時 / 4時間)

過程	児童の活動	学級担任の活動・ALT等の活動	◇指導上の留意点 ◎評価【観点】(方法)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">本時で使用する動作・時刻の言い方・質問の仕方を復習する。</div>			
展 開	<p>【Let's Play 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームのやり方を知り、ゲームをする。 <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>普段、日本語では会話しないことでも改めて外国語を用いてやり取りすることで、友達の新たな側面を知り、言葉でやり取りすることの面白さに気付き、言語活動の充実につながる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ビンゴゲームをすることを告げる。 ゲームのやり方をデモンストレーションする。 ビンゴカードに生活の中での動作を表すカードを選んで貼らせる。 ビンゴカードを一人一人が持ち、挨拶をする。その後、じゃんけんに勝ったら“What time do you ~?”と質問する。負けた方は自分の実生活での時間を答え、カードに印を付け、別れの挨拶をする。 ビンゴの児童が数人出たらゲームを終わりにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A : What time do you get up? B : At five. A : 私より早起きだね～!</p> </div>	<p>◇できるだけ多くの友達に質問できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>何をしている時間がいいかな?</p> </div> 
展 開	<p>【Let's Play 2】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">私のスペシャルタイムは何でしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> クイズのやり方を知り、問題を出すために必要な相談と練習をする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>みんな違う時刻だよ。分かるかな?</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>何の時間かな? 7時ならぼくは夕飯だけ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>聞き手に分かりやすく説明するためには様々な工夫(今回習った英語で表現するだけでなく、ジェスチャーや知っている別の英語表現で伝えようとする等)をすることが有用なことを実感させる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 「私たちの発表した時間は何をしている時間でしょう。」クイズをすることを告げる。 クイズのやり方をデモンストレーションする。 グループごとに何の生活時間をテーマにするか相談して決め、時間の言い方を練習する。 グループごとに一人一人がそれぞれの時間を発表し、何をしている時間が当てる。 <p>出題グループ : S1 At seven. / S2 At nine. / S3 At eight. / S4 At ten.</p> <p>回答グループ : Take a bath?</p> <p>出題グループ : No.</p> <p>回答グループ : Watch TV?</p> <p>出題グループ : Yes!</p> <p>回答グループ : What time do you watch TV?</p> <p>出題グループ : S1 At seven. / S2 At nine. / S3 At eight. / S4 At ten.</p>	<p>◇動作を表す言い方が分からない時は、ジェスチャーで伝えてもよいことを伝える。</p> <p>◎日常生活を表す表現や時間の言い方に慣れ、積極的に発表している。【慣】(発表観察)</p> <p>◎友達のスペシャルタイムについて共感したり、自分の生活と比べたりしながら聞き、クイズで積極的に発表している。【コ】(行動観察)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>友達のスペシャルタイムについて共感したり自分と比べたりすることで、言葉を使ってやり取りすることの面白さや便利さに気付く。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>みんなと違う共通の時間を見付けようよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>秩父の夜祭りに出かける時間はどうか?</p> </div> 

事例4 中学校の教材等を活用した事例 ～教材を活用して小・中をつなげる～

1 ねらい

本事例は、小学校外国語活動における中学校教材の活用をテーマにしたものである。中学校英語科教員との連携を図り、中学校英語と小学校外国語活動の内容を照らし合わせ、関連のある内容について、中学校で使用している教材（教科書や教科書準拠音声 CD、ビデオなど）を外国語活動で活用する事例について提案する。本事例では、「将来の夢を話そう」という単元で、中学校教科書準拠 CD と中学生のスピーチ発表を撮影した映像の視聴を通して表現に慣れ親しませるとともに、中学校英語への希望など情意面に訴えかけることをねらいとする。

2 単元名 I want to be a teacher. 将来の夢を話そう

3 指導と評価の計画（5 時間扱い）

時	目標・活動	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	○職業の言い方を知る。 ○英語と日本語での語彙の成り立ちや、性別による言葉の違いなどに気付く。			○	職業の名前について、語彙の成り立ちや、性別によって言葉が違うことに気付いている。	行動観察 振り返りシート分析
2	○職業の英語での言い方に慣れ親しみ、「～になりたい」という表現を知る。		○	○	絵を見て職業の名前を言っている。 Listening 活動において、職業の名前をメモしている。	行動観察 ワークシート点検
3 本 時	○様々な英語を聞いて、職業の名前と「～になりたい」という表現に慣れ親しむ。 ・中学校の英語を聞いてみよう ・中学生のスピーチのビデオを見てみよう		○		職業の名前が含まれる様々な英語を聞いている。	行動観察 ワークシート点検
この時間の活動を充実させるために、第1・2時で職業の名前や「～になりたい」という表現に十分に慣れ親しませたい。						
4	○将来の夢の言い方に慣れ親しむ。		○		将来就きたい職業について尋ねたり、言ったりしている。	行動観察 ワークシート点検
5	○相手に伝わるようにスピーチしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">スピーチは DVD 等に録画し、中学校英語科教員に渡しておく、中学校で活用することも可能</div>	○			相手に伝わるように、声の大きさや視線の配り方に気を付けてスピーチしている。	行動観察 録画ビデオ点検


4 ねらいを実現するための手立て・工夫等

この事例では、スピーチを通して英語で自分の思いを伝える楽しさを味わわせることをねらいとしている。また、その過程で、中学校英語の教材と中学生のスピーチのビデオを活用することで、中学校の英語の授業に対する期待をもたせ、小学校外国語活動から中学校英語へと系統的につなげていくことがねらいである。

中学校の教材を活用した活動では、より多くの児童に「中学校で学習している英語が聞き取れた」という達成感を味わわせるため、聞き取りの際にヒントの与え方を工夫することが重要であろう。そのため、段階的にヒントを与え、聞き取りが容易になるよう工夫していく。早い段階で聞き取れる児童も、確認するために何度も聞かせることで自信につなげる。


スピーチ・ビデオを使った活動では、自分達の先輩にあたる身近な中学生のスピーチのよい点に注目させたい。具体的には、声の大きさや視線の配り方、ジェスチャーなどが考えられる。発音のよいものも取り上げ、英語らしく話すことへのあこがれに目を向けさせることもできる。児童が行うスピーチのモデルとするとともに、中学校で英語を学習すると、こんなに素晴らしいスピーチができるのだという期待や自信につなげていきたい。

5 本時の展開例 (第3時 / 5時間)

過程	児童の活動	教師の活動	◇指導上の留意点 ◎評価【観点】<方法>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 中学生のスピーチ・ビデオを見て、職業の名前を聞き取ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をした後、日付や天候を聞く。 	◇外国語活動の授業が始まるという雰囲気をつくる。
導入	BINGO <ul style="list-style-type: none"> ゲームを通して職業の名前や「～になりたい」という言い方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの表現等を使って、BINGO を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 後のメインの活動につながるために、職業の名前や I want to be… などポイントとなる表現を確認しておく。中学校教材やスピーチ・ビデオで扱われる職業名についても、さりげなく触れておくようにする。 </div>	◇前時までの表現を使い、なるべくたくさん英語に触れさせる工夫をする。
展開	リスニング・チャレンジ I <ul style="list-style-type: none"> 中学校教科書 CD を聞き、職業名を聞き取る。 聞き取れた職業の名前をメモする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 予想される児童の反応 速いよ～。 難しい！ ↓ たぶん〇〇かな。 ↓ ああ、やっぱりそうだ！ ↓ はじめは分からなかったけれど、聞き取れるようになったよ！ </div>	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の英語にチャレンジすることを伝える。 職業名を聞き取るように指示してから CD を流す。 聞き取りのヒントを段階的に与える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ヒントの与え方の工夫例> 課題が「難」から「易」となるようにヒントを与え、聞き取れる児童が増えていくように工夫する。 ① ヒントなしで CD を流す。 「これが中学校の英語だよ。聞き取れたかな？」 「職業の名前が出てきたと思ったら、手を上げてごらん」 ② 「～になりたい」という表現を確認して、その表現に気を付けて聞くように指示する。 「～になりたいは、I want to be…だったよね」 ③ 該当する英文の前で CD を止めて、次の文をよく聞くように指示して、CD を再生する。 「(CD を止めて) これから流すところをよく聞いてごらん」 ④ 該当の文を聞いた後に CD を止め、教師がその文、または職業名を繰り返して聞かせる。 →英語を繰り返すのは、ALT などに任せてもよい。 「artist どう、聞き取れたかな」 「artist ってどんな職業だっけ」 +α : もう一度、全体を流して聞き取れるかチャレンジする。 「全体の中で聞き取れるかチャレンジしてみよう」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (CD の音声より) A: I'm interested in art. I want to be <u>an artist</u> in the future B: … I want to be <u>a computer programmer</u>. C: … I want to be <u>a music teacher</u>, so I will study hard. </div>	◇児童の知的な好奇心やチャレンジする気持ちに訴えかけるように声をかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 中学校の英語でも将来の夢を話している場面があるんだ。今日は中学校の英語の聞き取りにチャレンジしてみよう。 </div>  ◇児童にとって取り組みやすくなるように、聞き取るポイントを具体的に示す。 ◎職業の名前が含まれる英語を聞いている。 【慣】<ワークシート点検、行動観察> ◇中学校の教材で扱われている職業名については、第1・2時でさりげなく触れておく。

展 開	リスニング・チャレンジⅡ	<p>・中学生の将来の夢のスピーチ・ビデオを見て、将来の夢を聞き取る。</p> <p>・中学生の「将来の夢」のスピーチ・ビデオを見て、どんな職業になりたいのか聞き取ることを伝える。</p>	<p>◇「職業名」の聞き取りが活動の中心であることをおさえる。</p> <p>◇スピーチのよい点などを中心に取り上げて児童に伝え、中学校の英語授業への希望をもたせるよう働きかけを工夫する。</p>
	<p><スピーチ・ビデオの活用法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生のスピーチ・ビデオを一人ずつ止めながら流す。 ・将来の夢（職業の名前）を言っている文の後にビデオを止め、何になりたいと言ったか確認する。 ・聞き取りにくいところは、職業の名前を教師が繰り返して聞かせる。英語を繰り返すのは、ALTに任せてもよい。 	<p>スピーチのよい点を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声の大きさ ○視線の配り方 ○ジェスチャー ・発音（英語らしさ）など <p>◎職業の名前が含まれる英語を聞いている。</p> <p>【慣】<行動観察></p>	

Hello! I'm ○○. I want to be a great guitarist in the future. …Thank you.



中学生って、すごい！

あんな風に英語がしゃべれるようになりたいな。

(小学生のスピーチでは…)

Hello, my name is ○○. I go to △△Elementary School. I have a dream. I want to be a swimming coach. I love swimming. Thank you.

外国語活動が発展し、中学校英語につながっている

(中学2年生のスピーチになると…)

Hi, I'm ○○. I want to be a zookeeper in the future. I want to work for animals. Do you know why? First, I like animals. They are cute. Second, I had a work experience at a zoo last year. I enjoyed myself very much. I'll do my best to become a zookeeper. Thank you.

君たちも中学校で英語を学習すると、こんなに素晴らしいスピーチができるようになるんだ。中学生のスピーチのよかった点を参考にして、次の時間から「将来の夢」のスピーチをがんばって練習しよう。

発展例Ⅰ～中学校教材活用の視点

中学校教材の活用は、校区の中学校と連携することで他の単元（1日の生活や道案内、買い物の場面など）でも可能である。また、1時間全てで行うのではなく、授業の一部に取り入れたり、中学校の英語教員の出前授業で活用したりする工夫も考えられる。複数の小学校から一つの中学校へ進学する場合は、中学校から同じ教材を提供してもらうことで小中連携につながる。この場合、教材のやり取りだけで済むので、時間的な負担も少ない。

発展例Ⅱ～小学校外国語活動を中学校の英語学習で生かす

小学校外国語活動では、自分のことを話すことが多い。中学校の最初の授業で英語の自己紹介を行う場面を設定することで、小学校外国語活動が中学校で生きているという意識をもたせることができる。校長や学年の教員、他学年の英語担当に授業に参加してもらい、自己紹介を聞いてもらうなどの場面づくりを工夫することもできる。

このように、小学校の活動や教材を中学校で活用することも小中の効果的な連携に有効である。特に小中の接続期となる中学校1年生の4月頃は、積極的に外国語活動の経験を生かした活動が取り入れられるとよい。

事例5 他教科等と関連した事例

1 ねらい

本活動は、小学校外国語活動の目標の柱の一つである「言語や文化についての体験的理解」を実現するための取組である。いろいろな角度から、児童の体験的な理解を促すために、他教科等との関連に重点を置いている。総合的な学習の時間「ワールドフレンドプラン」で自国の伝統文化にふれることにより日本文化のよい点に気づき、その気づきから世界の国々への興味・関心を広げる。また、国際理解の観点から、世界には様々な文化や生活があることを知り、自分たちとは異なる文化等も尊重する態度を養う。その後、社会科「世界の中の日本」の単元で、日本と他国の経済的な関係についても深く学ぶ。社会科では調べ学習に取り組み、そこから得られた経験や知識を生かして、外国語活動につなげていくことをねらいとしている。

2 単元名 Where do you want to go? 行きたい国を紹介しよう

3 他教科等の指導計画 (本事例の前に実践した授業の概要)

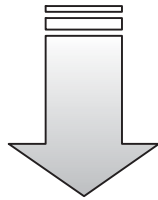
【 児 童 の 活 動 】

【 指 導 の ポ イ ン ト 】

総合的な学習の時間 「ワールドフレンドプラン」

- ・外国の方に日本を紹介するときに、どんなことを知らせたいか考える。
- ・地域のゲストティーチャーを招き、日本の伝統文化にふれる。
＜華道体験＞＜茶道体験＞＜邦楽体験＞など
- ・ゲストティーチャーとの交流を通して、自分の課題を明確にしていく。
- ・海外での生活経験をもっている児童や保護者から直接話を聞く。

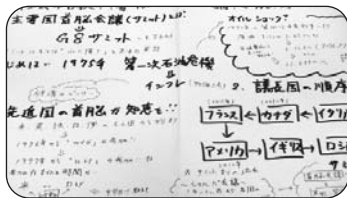
- ・日本のイメージを大まかに捉えさせ、本単元学習の足がかりとする。
- ・事前に体験させる内容について話し合い、ゲストティーチャーに依頼する。
- ・国ごとにブースを設定し、自由に選択させるようにする。※帰国児童のブースも用意し、より身近な国際理解体験をさせる。



社会科 「世界の中の日本」

- ・世界各国の様子や日本との関わりについて調べ、自地図に表す。
- ・アメリカ、中国、韓国の代表的な食生活を体験し、学習課題を話し合い、学習計画を立てる。
- ・日本と関係の深い国々の人々の生活の様子について、自分で国を選んで調べる。
- ・日々のニュースやインターネットから得られる世界情勢に目を向け、世界情勢について調べ学習を行う。

- ・我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国々について関心をもたせ、そこで暮らす人々の生活の様子に関心を広げる支援をする。
- ・外国の人々と共に生きていくためにはどうしていくことが大切なのかを考え、外国の人々に対する自分の関わり方について考えさせる。
- ・自分から情報を集め、自分なりに考える機会をもたせる。



外国語活動 「行きたい国を紹介しよう」

- ・音声教材から世界のいろいろな国々の子どもが話す英語を聞いて、分かったことを書く。
- ・世界の国旗について知る活動をする。
- ・指導者のスピーチを聞いて、分かったことを発表する。
- ・友達の行きたい国の発表を聞いて、自分と同じ国に行きたい友達が何人程度いるのかを聞いて調べる活動する。

- ・世界には様々な英語があることに気付かせる。
- ・言葉には優劣がなく、使う人にとってはどの言語も大切であることを理解させる。
- ・国旗の由来を知り、国民にとって国旗は重要な意味をもつことを理解させる。
- ・お互いの発表を聞くことで相互理解の足がかりとする。

4 指導と評価の計画 (4時間扱い)

時	目標・活動	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	～略～					
②	行きたい国やその理由についてのまとまった話を聞いて、その概要を理解する。 Activity 1 キーワードゲーム Activity 2 国当てゲーム活動Ⅰ		○	○	・国の形に興味をもち、世界にはいろいろな国があることに気付く ・互いの意見を聞き合い、意思疎通しながら活動に取り組む。	行動観察 振り返り シート分析
③	行きたい国を尋ねたり、答えたりする。 Let's Listen CDを聞いて答えを線で結ぶ。 Activity 1 国当てゲーム活動Ⅱ		○	○	・国の形に興味をもち、世界にはいろいろな国があることに気付く。	行動観察 振り返り シート分析
4	～略～					

5 ねらいを実現するための手立て・工夫等

- (1) 児童の実態把握を教材作成に生かす

児童にアンケートを実施し「行きたい国はありますか？」の答えからその行きたい国のフラッシュカードを作成し、単元の活動に盛り込むようにする。行きたい国が思い付かない児童には、担任が帰りの会などを利用していろいろな国の特産品や文化などを紹介するようにして、少しでも自国以外の国々に興味をもたせるようにしておく。

- (2) 国旗についての活動

短い時間を利用し、電子黒板などを活用して世界各国の「国旗当てクイズ」を行う。その活動の中で「この国旗は〇〇という国のもの」ということだけでなく、国旗の由来についても触れ、児童が興味・関心を広げやすいように支援する。

- (3) 地球儀や世界地図などの積極的な活用

外国語活動の授業では、教室の側面のスペースを利用して地球儀を置き、いつでも児童が触って楽しめるようにしている。特に児童が知らない新しい国を学習したときには、班ごとに地球儀をもち、『国の場所』『国の形』『日本からの距離』などを調べる活動を取り入れたりする。また教室前面には世界地図を常時貼り、いろいろな活動時に短い時間でも触れるようにしておく。



休み時間にも児童同士が進んで『国当てゲーム』に熱中。



短い時間にも電子黒板を利用して、『国旗当てゲーム』

- (4) 国の形をパズル化した ALT 手作りの教材使用

絵を描くのが得意な ALT に国の形を地図帳から写す作業を頼み、パズル化して本活動に使用することもできる。児童にとっても親しみやすい ALT の手作り教材ということがより児童の学習意欲につながる。また、活動Ⅱで行う児童同士の国当てゲームの中で使うパズルには、総合的な学習の時間、社会科で調べたその国に関する情報をパズルにヒントとして書き込み、問題を出す児童も活動に意欲的になるように支援することもできる。

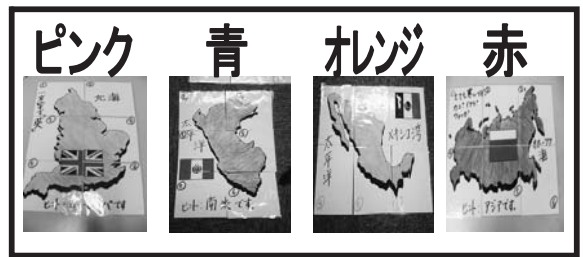


ヒント1: ALT の先生の出身地です。
 ヒント2: 日本に近い
 ヒント3: ツナ



確か闘牛が盛んな国は…
 ポルトガルのとなりは…

- (5) パズルを色分けすることで児童の発言を引き出す
 パズルはラミネートする前に国ごとに色分けをしておき、パズルを完成させやすいようにしておく。また班員がそれぞれ異なる色をもつことで「交換したい」「何色をもっているか聞こう」などの気持ちが生まれる。自然に“What color?”や“I want a blue card. Please change.”のような発言が増えていく。



6 本時の展開例 Activity 国当てゲーム活動 ～本活動の流れとゲームの仕方～

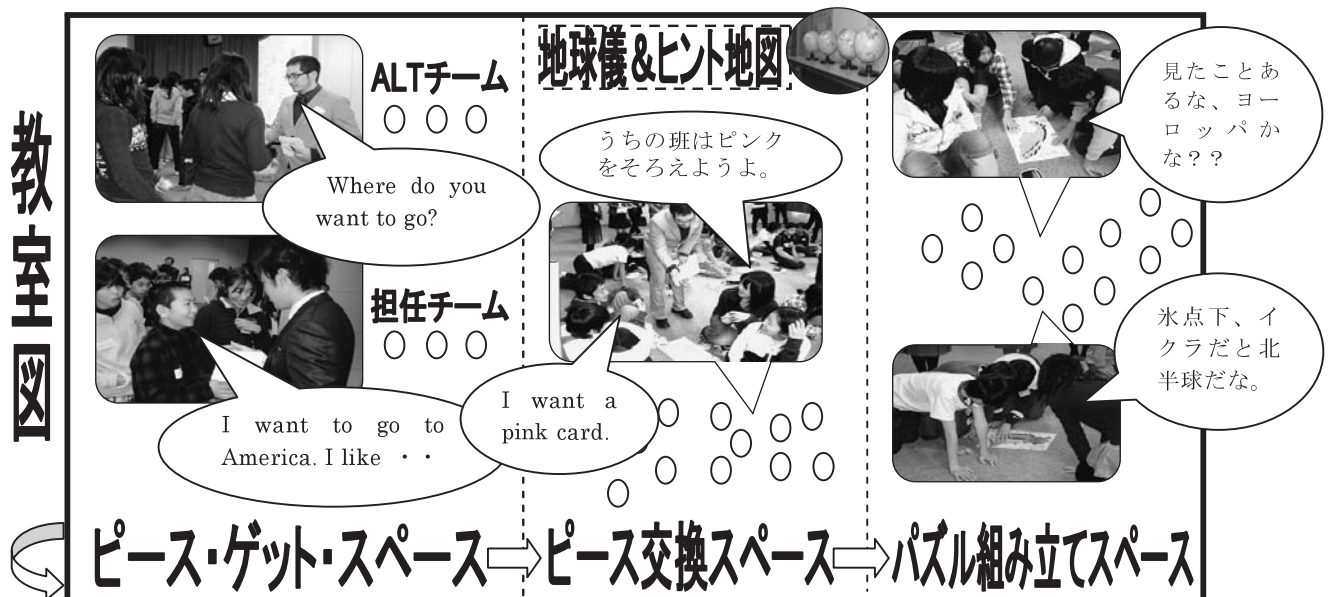
活動内容	児童の活動	チームティーチング		◇指導上の留意点 ◎評価【観点】<方法>
		HRTの活動	ALTの活動	
Activity ・国当てグループ対抗ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・担任からゲームの説明を聞く。 ・ルールを理解し、役割を決めてゲームを行う。 ・班で協力して国の形をあてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国当てグループ対抗ゲームについて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の説明を聞く。 ・担任と共にデモンストレーションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇初めてのゲームなので、しっかりとルールと内容を確認させる。 ◇地図で国の形を探したり、他のグループとピースを交換したりと、役割分担をさせる場をつくり、意図的にコミュニケーションをさせる。 ◎国の形や英語名に興味をもち、世界には色々な国があることに気付いている。 (気)【行動観察】【振り返りシート】
		<p>～国当てゲーム活動のルール～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①クラスを『担任チーム』と『ALTチーム』に分ける。(4グループずつ)(8班を二つに) ②『担任チーム』は担任、『ALTチーム』はALTの元に一人ずつ行き、Where do you want to go?の質問に答える。 ④質問に答えたら、ピースを1枚引く。 ⑤グループでピースを集めてどの国かを当てる。 		

(7) 本活動を実施する際の教室図(例)

本活動をより円滑に実施するために教室を三つのスペースに区切って実践した。はじめに担任もしくはALTからパズルのピースをもらう『ピース・ゲット・スペース』からスタートする。その後、班のメンバーはそれぞれ異なる色のピースをもっているため、班内で話し合いをして色を決め、他の班員とピースを交換する『ピース交換スペース』に行き、自分たちの集めたい色のピースを得る。その後、班員で集めたピースを組み立てる『パズル組み立てスペース』でパズルを完成させ、その形からどの国かを当てる。

※場面を分けることで、どの児童がどこで困っているかが分かり、担任、ALTとも支援がしやすい。

○→児童



外国語
活動

☆国当てゲーム活動Ⅱでは、この『ピース・ゲット・スペース』にHRTとALTではなく、クラスの半数の児童がピースを持っている状況をつくる。活動Ⅰと同じようにピースを持っていない児童が“Where do you want to go?”と聞くので、ピースを持っている児童が“I want to go to○○.”と答えピースをもらう。その後は活動Ⅰと同じようにグループごとにパズルを完成させる活動をする。

事例6 児童生徒の交流活動の事例（小中連携）

1 ねらい

新学習指導要領の全面実施に伴い、小学校外国語活動と中学校外国語において、一貫した目標や系統的な指導内容及び継続的な指導方法の工夫改善が求められている。また、小学校6年生が感じている中学校生活に対する不安の解消は大きな課題である。そこで、小・中学生交流活動を行うことにより、児童生徒や教師自身にとっての「円滑な接続」を図ることをねらいとする。

2 単元名 What do you like to do in fall? 実りの秋発表会

3 指導と評価の計画

【小学校3時間扱い】

新しいことをゼロから創り出すのではなく、自校の年間指導計画及び単元計画を最大限に活用し、児童の活動の結果が交流活動に結び付くように計画する。

時	目標・活動	評 価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	○ハロウィーンや収穫祭など、外国の秋の行事について知る。 ・カルチャータイム（ALTの話） ・陣取りゲーム ・自己紹介				○ ハロウィーンや収穫祭などの外国の秋の行事と日本の行事との共通点や違いに気付いている。	・振り返り カード分析
2	○自分が秋にしたいこと（好きなこと）を英語で述べる言い方に慣れ親しむ。 ・カード・リレー・ゲーム ・ペア探しゲーム 交流活動で行うカード・ゲームのやり方に慣れる。				○ ゲームや自己紹介の中で、動作を英語で言ったり、自分が秋にしたいこと（好きなこと）を英語で言ったりしている。	・行動観察 ・振り返り カード点検
3 本 時	○自己紹介やカードゲームを行い、英語で質問したり応答したりすることを通して、進んで中学生との交流を深める。 ・ペア探しゲーム ・自己紹介 ・カードゲーム				○ 秋にしたいこと（好きなこと）を題材に、自己紹介やゲームを行い、進んで中学生との交流を深めている。	・行動観察 ・振り返り カード分析

【中学校2時間扱い】

交流活動のための準備は、効率よく、短時間で行うように計画する。

時	目標・活動	評 価				
		関	表	理	言	評価規準
1	○好きなことや秋にやってみたいことが、相手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意して自己紹介文を書く。（W） ・自己紹介文を書く。 ・書いた自己紹介文を、班の中で発表する。 自己紹介文の条件 I like to <u>不定詞</u> を使用する。				○ 自分の名前や好きなこと、秋にやってみたいことなどが、相手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して英語で書くことができる。（W）	・自己紹介文評価 授業後に添削し、生徒に返す。

2 本 時	○自己紹介やカードゲームを行い、英語で質問したり応答したりすることを通して、進んで小学生との交流を深める。 ・ペア探しゲーム ・自己紹介 ・カードゲーム	交流活動では、英語を使って積極的に小学生と関わったり、リーダーシップを発揮して活動したりすることを第一義的な目標とする。		
		○		秋にしたいこと（好きなこと）を題材に、自己紹介やゲームを行い、進んで小学生との交流を深めている。

4 ねらいを実現するための手立て・工夫等

ア 教育課程上の手立て

交流活動案作成にあたっては、小学校外国語活動の年間指導計画に沿って立案する。その際、中学校における準備時間は、1～2時間程度とし、過度な負担を強いることのないように配慮する。

イ 評価について

交流活動は、児童生徒が進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを第一義的な目的とする。そのため、交流活動における評価の観点、小・中学校とも「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」のみとする。

ウ 互いのよい点を認めあえる活動を仕組む

歌の交換や様々なコミュニケーション活動を通して、小学生が中学生に対するあこがれをもてるようにする。また、振り返り活動の中で、中学生が小学生の頑張っている場面を具体的に褒めたり、小学生が中学生の素晴らしいところについて感想を発表したりすることにより、互いの自尊感情を育み、外国語学習に対する意欲を更に高める。

エ 活動について

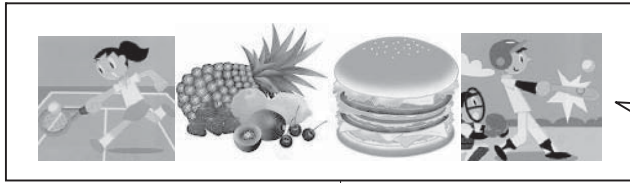
交流活動では、小・中学生が互いに緊張し、活動がスムーズに進行するまでに時間がかかることも多い。このようなことを避けるため、例えば、挨拶ではあらかじめ色の違うシールを6枚持ち、挨拶の後でシール交換をさせるなど、行動の結果が具体的に見えるように工夫する。

オ 指導者について

中学校英語教員をT1、小学校学級担任をT2とし、ALTや外国語に堪能な地域人材等をT3とする。T1は主に英語で授業の進行を行い、T2が児童の反応を見ながら補助する。

5 本時の展開例（小学校 第3時／3時間、中学校 第2時／2時間）

指導過程	児童生徒の活動	教師の活動	◇指導上の留意点 ◎評価【観点】＜方法＞
1 挨拶 (4分)	・児童生徒が互いに挨拶する。 	・挨拶のモデルを提示する。 各自が6枚のシールを持ち、挨拶をした小学生／中学生とシールを交換し、名札に貼る。	◇小学生と中学生がそれぞれ色違いのシールを持ち、挨拶の後で交換する。 たくさんの小学生／中学生と挨拶できるようにするための工夫。
2 歌の交換 (5分)		中学生の歌は、難しそうだけど、迫力があるなあ。 この歌、懐かしい。大きな声で歌っているなあ。	小学生は、中学生の歌に対する憧れをもち、中学生は、小学生の歌への懐かしさを感じられるような選曲をする。
3 練習（復習） (3分)	・本時の交流活動に必要な表現を復習する。 What do you like to do in fall? I like to (play tennis).	・T2が中心になって、進行し、T1はICTを操作する。	◇ICT活用 スクリーンに画像を映し、テンポよく復習できるように配慮する。



交流活動のカード・ゲームで使用する絵をスクリーンに映して練習する。

4 交流活動

1) グルーピング
(10分)

・活動の手順を理解する。

・手順を説明する。(T1)
・説明を補助する。(T2)

◇小学生は3～4人班×15組をつくり、好きなスポーツを決めておく。
◇中学生も同様に、15組の班を作っておく。

- ・小学生は、班で協力して、自分たちと同じことが好きな中学生を捜して、自分たちの場所に連れてくる。
- ・中学生は、あらかじめ班ごとに好きなスポーツを割り振っておき、小学生に見付けてもらうまで待つ。
- ・決められた人数の中学生を集めたらグルーピング完了。

中学生の立ち位置を固定し、インタビューしやすくする。

2) 自己紹介

(8分)

・編成された班の中で自己紹介を行う。
・中学生が進行役を務める。

・T1とT2が自己紹介のモデルを示す。

小学生: Hello. My name is ().
I like to (play soccer) in fall. Nice to meet you.
中学生: Hello. My name is (). I like (books) very much.
I like to (read books) in fall.

◎評価

秋にしたいこと(好きなこと)を題材に、自己紹介やゲームを行い、進んで小学生/中学生との交流を深めている。【コ】<行動観察・振り返りカード分析>

3) カードゲーム

(15分)

・活動の手順を理解する。

・手順を説明する。(T1)

・札を出すとき
(例) I like to play baseball. Green 4.
I like to read comic books. Yellow 5

・ゲーム中は日本語禁止!



I like to play baseball.
Green 4.

ルールは通常のUNOと同じ

<オリジナルUNOカード>



5 まとめ

(5分)

・感想を記入する。
・小・中学生が感想を発表し、互いのよいところを認め合う。

・数人の児童生徒を指名し、互いの活動に対する感想を発表させる。

◇児童生徒の前向きな感想を引き出し、小・中学生が互いのよいところを認め合い、今後の英語学習への意欲を高める。



中学生がとても上手に英語を話していたので、カッコいいなと思いました。見習いたいです。

【小学生の感想】

中学生は英語がペラペラで、とても驚きました。私も中学生になったら、英語をもっと頑張りたいです。そして、中学生になったら、私も小学生に英語を教えてあげたいと思いました。

【中学生の感想】

小学生が堂々と英語をしゃべっていた。小学生にほめられて、ちょっと照れた。